

令和4年度子どもの力と意欲を伸ばすキャリア教育実践交流協議会

【目的】 各小・中学校及び義務教育学校において特別活動または進路指導を推進する立場にある教員等を対象に、これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力に関わる講演・説明等を行うことにより、キャリア教育の充実及び大分県版キャリア・ノートの活用促進を図る。

【期日】 令和4年 8月29日（月）

【会場】 ビーコンプラザ レセプションホール

【参加者】 特別活動または進路指導を推進する立場にある教員等
(感染予防対策のため市町村の代表者)

【内容】

講演 「キャリア教育の意義
～大分県版『未来をえがくキャリア・ノート』の活用に焦点を当てて～」

講師 : 筑波大学 人間系 教授 藤田 晃之 氏



【講演の概要】

■ 学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方

- ・具体的な目標設定とは
- ・キャリア教育の要（学級活動）
- ・今ある実践の中にある「キャリア教育の宝」

■ 「キャリア・パスポート」で学びをつなごう

ー大分県版「未来をえがくキャリア・ノート」を活用しようー


- ・「キャリア・パスポート」とは
- ・「キャリア・パスポート」の姿
- ・とりわけ大切なのは先生のコメント・言葉がけ



説明 「地域の教育資源を活用したキャリア教育について
～OITA仕事発見・夢発見事業の取組～」

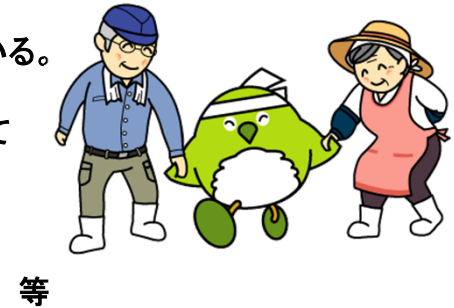
協議 「キャリア・ノート活用についての成果と課題」
「地域の教育資源を活用したキャリア教育の取組」

【キャリア・ノート活用の成果と課題】（事前提出資料より）

成果	課題
<p>【自己肯定感、意欲等の高まりについて】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 自己評価アンケートの「自分の将来について考えることができた」と答える割合が向上した。キャリア・ノートを活用することで、キャリア教育を計画的に進めることができた。■ 前学期や去年の自分の振り返りができ、それが次年度への意欲の高まりへとつながっている。■ 自己肯定感をもつことや自分の興味・関心に気付き、進路計画の立案に役立った。■ 「大人からのメッセージ」でアドバイスやコメントを記入することで、個に応じた指導ができ、生徒に充実感を感じさせることができる。 <p>【生徒理解について】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 校種を越えて引き継がれているので、中学入学以前の生徒の思いなどを教師が知ることができている。■ 児童が何に達成感、満足感を得ているか、何を課題としているかが分かる。 <p>【学びの広がりや深まりについて】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 総合的な学習の時間と連動させて活用できるので、思考の過程が記録として残る。過去に考えたことを思い出す機会になる。■ 他者との交流により、固定概念を払拭し、視野の広い価値観が生まれている。 <p>【保護者との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 持ち帰らせることで、保護者にキャリア・ノートの取組や学校での子どもの成長について知ってもらえる。■ 校内での活用の仕方を共通理解しているので、使用に差が生じず、保護者にも記入してもらい、連携が図れた。	<p>【活用、指導方法について】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 書かせるだけの物になってしまっている。 <p>○例えば、「自分のいいところ・得意なこと等」を記述する欄を扱う際には、友だち同士で、お互いのよさ等について出し合い、その中から決めることが考えられます。 【義務教育課ウェブサイトの「キャリア・ノート活用事例」を参考にしてください】</p> <p>【共通理解について】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 学校全体で足並みをそろえて活用することが難しい。■ 小中の校種間で活用について情報交換を行い、引き継ぎ等の共通理解をする必要がある。 <p>○例えば、学校行事等の時期を確認し、特別活動の全体計画・年間指導計画等と関連付けることが考えられます。 【義務教育課ウェブサイトの「キャリア・ノート活用時期例」を参考にしてください】</p> <p>【保管について】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 保護者にコメントを書いてもらったり、回収、確認がしづらい。■ 進級や進学時の保管の仕方に課題がある。■ 懇談会での活用や持ち帰らせるなどして、児童への励ましの言葉をもたらえる機会をもちたい。 <p>○キャリア・ノートの活用の意義や高等学校まで使用する大切な物であること等を学級懇談会や学校だより等で話題にし、周知すること等が必要です。 【義務教育課ウェブサイトの「キャリア・ノート活用の手引き」を参考にしてください】</p> <p>【関連資料 掲載先】 https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/kyarinote.html</p> 

【地域の教育資源を活用した取組】（事前提出資料より）

- ・ 農山に宿泊体験、田んぼ活動を実施している。
- ・ 子どもたちが地域をあらためて知るために、地域の方と意見交換をしたりフィールドワークをしたりしている。
- ・ 持続可能な街づくりについて、市役所に提言（プレゼン）を行うとともに、地域のPR動画を作成した。
- ・ 小6が地域の未来について学び、市長ミーティングで許可をもらって町の歌をつくった。
- ・ 地域の歴史や特産、お祭り等を調べたり、講演会を開催したりする際に地域の方に協力してもらっている。
- ・ 地域の方と触れ合いながらふるさとのよさを味わうために、スケッチ大会を実施している。
- ・ 市主催の「平和ウィーク」で、6年生が子どもガイドとして参加している。県内外から来られる方々に向けて説明や平和へのメッセージを伝えている。
- ・ 地域の美術館、工房等と連携して、見学、取材活動をし、その様子を文化祭でPRをした。
- ・ 漆職人、アナウンサー等、様々な職種の方を派遣するキャリア教育に特化した団体の協力を得ている。
- ・ 企業が地域につくろうとしている公園について、子どもたちが公園づくりに参画する計画がある。



講演・実践交流協議を終えた参加者のアンケートより

■ 小学校から中学校にかけて、学びが広がっていくことを実感した。また、キャリア・ノート活用の成果と課題については、小中どちらも同じような成果と課題があることがわかった。キャリアノートのより有効的な活用を探りながら、共通理解していきたい。

■ 日頃聞く機会がない中学校の話も聞いて参考になった。キャリア・ノートの取り組み方など、他の学校のことを聞いて参考にしようと思った。佐伯の高校の生徒の声をOITA仕事発見・夢発見事業のビデオを通して聞くことができてよかった。

■ キャリア・ノートの活用について、他校の取り組みが知れてよかった。特に中学校のキャリア教育の取り組みは小学校でのキャリア教育のこれからの参考になった。キャリア・ノートを12年間保管することが難しいという意見があったが、グループの中で、GIGAスクールも進んでいるのでデータとして保存していくとうまく持ち上げることができるのではという意見があった。

■ キャリア教育は子どもの生き方教育そのものであり、小・中・高を通して連続した取組を行っていく必要があるということあらためて感じた。

■ 日々の授業や活動の中にキャリア教育の「宝」がたくさんあるということ、キャリア教育の視点をもっていなければ大切な学びを見失ってしまうということが印象に残った。中学校のキャリア教育の様子が聞けたので、小学校からつながるようにしていきたい。

■ キャリア・ノートについて、それぞれの地域や学校の実情に応じて活用されていること、地域に即したキャリア教育の取り組みを多く聞くことができた。話を聞くだけで興味をそられる…地域には素晴らしい素材がたくさんあることを改めて実感した。系統立てて学習を積むことの重要性を感じた。

■ キャリア教育とは教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育むものであり、その要となるのが学級活動であるということ。児童生徒の意思決定を尊重し、学びを進めることで、地域の魅力を再発見し、地域を誇りに思う子どもたちが育つのだということが印象に残った。

■ 目の前にいる子どもに合った、具体的な目標の設定をすること、そしてそれを評価に結びつけることが子どもにとっても、教師にとっても良いとわかったため、キャリア・ノートを活用しながら見直していきたい。

